

一 般 質 問

6月議会では、4名の議員が一般質問を行いました。



町内の耕作放棄地

農家を守る

今後の政策について

榎谷 千重子 議員

継承者不足から耕作放棄地が増え、鹿や猪、狸、その他鳥獣の楽園となり、今ではハクビシン、狸などは民家のすぐそばまできており、自然的関係が崩れようとしています。

そこで、耕作放棄地の薬草栽培はどこまで進んでいるのか、その展望と人材確

保、イノベーション、技術開発支援、目利き人材の育成などはどうなのか。

また、耕作放棄地の活用として、太陽光発電設置にむけ、地代収入までの支援策と地権者への説明会などを設けてはどうか。

再生可能エネルギーの地産地消の推進も検討しては

どうか。その実現に向けて町長の見解をお聞きます。

福井町長

耕作放棄地の有効活用、

イノベーション、再エネ活用、六次産業化など、できること全てを駆使し対策を考えていく必要があります。

耕作放棄地の利用法として、貸農地のほか、太陽光発電、薬草栽培、鳥獣害に遭わない農作物の栽培、温室栽培などになるうかと思

外国人や観光客に対する積極的な、地域観光資源は、これから、もっともっと発信していかなければならないと思いますが、その拠点と成りえるのか。

また、いろいろな取り組みをされるとのことですが、

6月議会にも1千万円が計上されていますが、すべて商工会に丸投げなのか、町の主導権はどこまでなのか、今後の展望をお聞きます。

福井町長

問題は誰が耕作するかということですが、「人農地プラン」記載地域の農業の担い手か、地域おこし協力隊になるうかと思いますが、将来的には法人化を進める必要があると考えています。小量の一次産品を六次産業化により最大限活用できる方法を模索していかねばならないと考え、今後は徳島県、農協、漁協とも協議連携し、懸命に取り組んでいくとともに企業も参加しやすい仕組みを国等に要望してまいりたいと考えています。

中村活性化センターと河内活性化センターは二つに分けたのではなく、統合によって廃校になったところを有効活用するという観点から二つに分かれているということです。

旧河内小学校に開設した活性化センターのその後の取り組みと展望は

榎谷議員

旧牟岐小学校と二箇所拠点となつていますが、その意図はどうかお聞きします。